

12

最後の居住者
真中ハツさんの思い出

令和元（2019）年8月、竹内農場西洋館最後の居住者、つくば市在住の真中ハツさんに、当時の西洋館の様子やそこでの生活などについてお話を伺いました。真中さんは昭和14（1939）～25（1950）年頃まで11年ほど西洋館にお住まいになったそうです。西洋館が実際にどのような間取りだったかなど、記憶を辿り紙に記してくださいました。西洋館の設計図が見つからないため、間取りについてのお話はとても貴重な証言です。

田中 まずはお聞きしたいのですが、真中さんは西洋館にいつからいつまでお住まいでいらしたのでしょうか？

真中 私が5歳くらいのときだったと。すぐ下の弟が1歳かな。一番下の弟は西洋館生まれですから。3人姉弟なんですよ。すぐ下の弟は今もおりますが3番目の弟はすでに亡くなっています。（西洋館については）すぐ下の弟はあまり興味ないみたいなんですよ。

前田 幼少のころだと記憶があまり、という事もありますよね。

真中 西洋館から引っ越したのは私が中学卒業したかしらないくらい。引っ越した先は古い家を買って、仮屋というか長屋みたいな家でした。それから何年かして家を新しくしたんですけどね。

しばし談笑ののち、いよいよ本格的に当時住まわれていた西洋館についてお話いただきました。

田中 ご家族の方と西洋館について何かお話されたりしていますか？

真中 家族は知ってましたね。あの、お化け屋敷だと騒がれたりしたことも。

田中・前田 廃墟みたいな言われ方してましたね。心霊スポットみたいなね。

真中さんのお孫さん、西洋館が心霊スポットだ廃墟だといわれていた頃に現地に見に行かれたことがあるそう。そんな話を聞いた真中さん、お孫さんに「おばあちゃんが昔住んでいったところなんだよ」とお話しされた経験があたりだそう！！

真中 「心霊スポットってどんなところだったの？」

と孫に聞いたら「赤いレンガの建物だよ」と言うんですよ。それで「そこはおばあちゃんが昔住んでいたところだよ。心霊スポットなんかじゃない！」ってね（笑）。

田中 お孫さんどんな反応されましたか？

真中 「ええーおばちゃんが住んでいたところだとは思わなかった」って。

田中 ではお孫さんはあの建物はそういった（マニアックな）事では知っていても、真中さんが昔実際にお住まいだったとはご存じなかったんですね。

真中 そうですよ、驚いてました。

西洋館そばには真中さんのおじいさまのお墓があるということで墓参には行っているそうです。

当NPO法人と真中さんとの接点へと話が続きます。保存活動や第一回目のフォーラム開催の記事が大手新聞に掲載されました。真中さんはこの記事をご覧になり接点が生まれたのです。

前田 2017年9月に西洋館に関する市民フォーラムを開催した際、真中さんから直接お電話いただきまして。そのときに初めて由緒ある建物だという事がお解りになられた。

真中 その前に、孫達が実際にネットで西洋館について調べたんです。そうしたら立派な建物の写真とか見られて。

西洋館の建前たてまえの写真とかありますよね。それを見ましてね。当時こんな方々が建てられたんだと話してた時にちょうどフォーラムが開催されるのを知りまして。

田中 西洋館が由緒ある建物と解ってからのご家族

の反応はいかがでしたか？

真中 (既に現在は建物の屋根や床板など抜けてしまいいろを眺めるだけとなっていることから) あれじゃ使い物にはならないよねと話していますけどね。でも保存するんだよね、と。当時は何にも経緯も解らず、ただ住んでいただけでしたから。

竹内家が去ってから西洋館は管理が行き届かず、館内の品々や備品が盗難にあたり荒らされてしまったりという年月が続きました。

田中 今の西洋館には大まかな外観しか残ってませんが、真中さんがいらした当時はまだ浴室などはあったんですね？

真中 当時設置されていた風呂釜はすごかったんですよ。お風呂は排水することが出来なくて、湯船の水はバケツでくみ出していました。新しい水は稲葉さんの井戸から汲んではヨチヨチ運んでました。それで戦時中、家族がお風呂場のすぐ後ろに井戸を掘りました。囲いを竹で編んで崩れないようにして、そこから水を汲み上げましたね。

トイレはね、当時既に床が抜けてしまっていて、板を渡して使っていましたよ。高いトイレで床が抜けて怖いトイレだった。溜めるところがあり、溜まったら畑にまいた。

前田 雨漏りはいかがでしたか？

真中 2階の雨漏りはなかった。(1階の) 広間との繋ぎ目のところが雨漏りしていた。地下室も水が入り込んでいて使えなかった。居間にも囲炉裏がありましたね。地下室があるところが玄関。地下室に板のようなものを渡して使っていました。

(2階には) 間仕切りがあった。2階は遊び場だったですね。押入れもあった。

階段は西洋風のらせん階段になっていて鉄骨の上に板張りしてありました。

話は佳境に入り、真中さんご一家が西洋館に住むことになったきっかけについてのお話に。

真中 父親が当時住む場所を探していたときにたまたま西洋館が目に入り、当時龍ヶ崎の黒田さ

んという人が管理していると解^(注)って。父は八代(八原村)の黒田さんから借りたそうです。黒田清さんはよく訪ねて来てくれました。戦後に開拓で八原に来た人と聞いています。西洋館には2階に2組入ってたんですよ。当時はうちも入れて3組の家族が入っていたんですよ。2階の家族は数年しかいなかった。

前田 明治政府の津田出^{いずる}が四国から農民を連れてきて女化^{おなぼけ}の開拓に当たったが、失敗に終わる。農地は小作民に払い下げられたが、農民の生活は苦しく、そんな時に竹内農場ができて、生活ができるようになった。女化の農民は助けられたでしょうね。

真中 竹内留吉一家がありましたよ。そこには子供がいなくて。事務所だった。おじちゃん、おばちゃんがいた。多分竹内家の身内じゃないかな？(西洋館の)入口付近にある竹内家の墓が竹内留吉さんの墓。

稲葉さんのところにあった井戸はコンクリート製で水が枯れることがなかった。我が家は年中水を貰いに行っていた。竹内農場が掘ったんじゃないかな。綱で下げて水をくみ上げた。釣瓶^{つるべ}式になってなくてね。

(西洋館には)昭和14年から住んでその間に弟が生まれました。戦時中父は出征して昭和21年に帰ってきた。

父はいろいろなものを作っていてね。広間でバクダン(米などに圧力をかけて爆発させて作る駄菓子)を作って袋詰めにしたたり、サツマイモを煮て餡を入れた大学芋やせんべい焼きなどいろいろ。4歳から中学卒業まで住みましたね。

西洋館最後の居住者真中さんのインタビュー記事、いかがだったでしょうか。誌面の都合により全文掲載出来ませんでしたが、貴重なお話がたくさんありました。真中さんありがとうございました。

(インタビュー担当：前田享史・田中加代)

(注) これは真中さんの勘違いで、実際には黒田清氏親戚の塚本幸三郎氏。戦後の管理が黒田氏。